

# 防災の日

9月1日の防災の日に合わせ、地震や台風など自然災害の被害を抑える防災訓練が、小学校や消防庁舎で行われました。町内で過去に発生した災害や、近年の異常気象の傾向を踏まえた訓練は、大雨に伴う水害から身を守る方法を重点的に学ぶ内容。小学生や消防団員らが万が一の備えとして、防災や避難時に役立つ知識と技術を身につけました。

2日に妹背牛小学校の体育館で開かれた「1日防災学校」には、4、5年生の計30人が参加。町役場総務課の職員から水害への心構えや、避難時に活用する段ボールベッドの組み立て方を教わりました。



はじめに、過去の災害記録や水害発生メカニズム、避難場所について説明を聞きました。



1人で留守番をしていた時に、洪水発生や避難指示の放送を聞いた時の行動を問うクイズも。



続いて、職員から段ボールベッドの部品や組み立て際のポイントを教えてもらいました。



足の不自由な人に扮した児童を避難場所に案内。発熱のある人は別のテントに誘導しました。



最後は、避難所の受け入れを模擬体験。氏名や発熱の有無を確認し、記入してもらいました。



3つのグループに分かれて、段ボールベッドの組み立てに初めて挑戦。寝心地も確認しました。

## 防災訓練



排水訓練

妹背牛消防団は1日に水防訓練を行い、消防庁舎前では大雨時に活用する排水ポンプの使い方を確認しました。

続いて、小学校のグラウンドに場所を移し、土のう訓練を実施。団員たちは布袋に砂を入れて、50袋の土のう袋を用意しました。

ブルーシートにくいが打てる河川敷の土を想定した場面では、L字のシートに土のう袋を敷き詰めて強度を高めました。一方、くいが打てないアスファルトでの作業も想定し、土のう袋をシートで包む方法も学びました。

土のう訓練

